

お知らせ

令和4年8月5日  
水産庁

令和3年度の食料自給率(水産物)の概要

本日、令和3年度の食料自給率等が、大臣官房政策課食料安全保障室から公表されました(農林水産省ホームページ(URL は [https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu\\_ritu/011\\_2.html](https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu_ritu/011_2.html))に掲載)。

このうち、水産物の自給率は以下のとおりです。

【重量ベースの自給率】

年度	令和元年度 確定値	令和2年度 確定値	令和3年度 概算値	増減
魚介類(食用)	55%	57%	59%	+2ポイント
魚介類(全体)	53%	55%	57%	+2ポイント
海藻類	65%	70%	69%	-1ポイント

※自給率(重量ベース)の算出方法

$$\frac{\text{国内生産量}}{\text{国内消費仕向量}} \times 100 = \frac{\text{国内生産量} + \text{輸入量} - \text{輸出量} \pm \text{在庫増減}}{\text{国内消費仕向量}} \times 100$$

【水産物自給率(重量ベース)の増減要因】

【魚介類(食用)】

- ・ 国内生産量は、かたくちいわしやびんなが等の漁獲量は減少したが、さば類やかつお等が増加したため、1.4万トン増加(303.7万トン→305.1万トン)した。
- ・ 国内消費仕向量は、国内生産量が増加し、輸入量が増加(289.0万トン→293.4万トン)した一方、輸出量の増加(68.0万トン→78.2万トン)等により、前年度に比べ11.8万トン減少(528.3万トン→516.5万トン)した。
- ・ これらの結果、自給率は上昇した。

【海藻類】

- ・ 国内生産量は、こんぶ類が増加したが、わかめ類とりのり類が減少したため、1.1万トン減少(9.2万トン→8.1万トン)した。
- ・ 国内消費仕向量は、前年度に比べ1.4万トン減少(13.2万トン→11.8万トン)した。
- ・ これらの結果、自給率は低下した。

<参考>

1. 食用魚介類自給率(重量ベース)の要素ごとの変動要因

・国内生産量 前年比 1.4 万トン(2%)増加

生産量が増加したもの

さば類(4.5 万トン増)、かつお(3.6 万トン増)、うるめいわし(3.1 万トン増)等

生産量が減少したもの

かたくちいわし(2.7 万トン減)、びんなが(2.6 万トン減)、するめいか(1.7 万トン減)等

・輸 入 量 前年比 4.4 万トン(2%)増加

輸入量が増加したもの

さば類(2.1 万トン増)、えび類(1.9 万トン増)、にしん(1.3 万トン増)等

・輸 出 量 前年比 10.2 万トン(15%)増加

輸出量が増加したもの

ほたてがい(6.4 万トン増)、かつお(1.4 万トン増)、ぶり(1.2 万トン増)等

・国内消費仕向量 前年比 11.8 万トン(2%)減少

2. 海藻類自給率(重量ベース)の要素ごとの変動要因

・国内生産量 前年比 1.1 万トン(12%)減少

・国内消費仕向量 前年比 1.4 万トン(11%)減少

3. 水産物の自給率(重量ベース)の推移 (%)

	H26年度	27	28	29	30	R元	2	3(概算)
魚介類(食用)	60	59	56	56	59	55	57	59
魚介類(全体)	55	55	53	52	55	53	55	57
海藻類	67	70	69	69	68	65	70	69

資料:「食料需給表」

担当:水産庁企画課 動向分析班

山本、岩崎

代表 03-3502-8111(内線6578)

直通 03-6744-2344